

# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン

SNET広報 16号



編集責任者：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 高山 直樹  
 事務所：〒253-0044 神奈川県茅ヶ崎市新栄町 13-48 ワラシナビル5階  
 電話・FAX：0467-85-6660 直通電話：090 4937 4904 定価 100円  
 ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com

## 2008年度(第8回)NPO法人総会報告

特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマンでは、2008年6月21日茅ヶ崎市勤労市民会館にて、第8回通常総会を開催し、全ての議題を原案通り可決し、無事終了したことをご報告申し上げます。また、総会において選任された理事により、臨時理事会を開き、理事長に高山直樹氏を再選いたしましたので、併せてご報告申し上げます。



### 市民による権利擁護を追求します！！

理事長 高山直樹

特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマンは、11年目を歩み出しました。これまでのオンブズマン活動に加え、茅ヶ崎市との市民提案型協働推進事業である「成年後見支援センター」をスタートさせました。地域包括支援センター等との連携を深めつつ、市民による権利擁護を推進していく所存であります。

また新しい理事会が組織されました。形式的な理事会ではなく、役割をしっかりと担っていただく理事の構成となりました。これまで以上に、利用者の方々の声に耳を傾け、その声の実現に誠実に関わる活動を展開していきます。同時に、契約施設との関係やオンブズマン活動のあり方についての総括と整理をしていく年度でもあります。

閉塞感や不安感がますます大きくなっているときこそ、市民による連帯が必要と考えます。今年度もご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事・監事名簿(敬称略)		
役職	氏名(住所)[各50音順]	所属名称
理事長	高山 直樹 (藤沢市)	Sネット
副理事長	江崎 康子 (藤沢市)	Sネット
副理事長	永峯 千尋 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事	石光 隆志 (横浜市)	Yネット
理事	稲木 俊夫 (逗子市)	社会福祉法人湘南の風
理事	大石 剛一郎 (川崎市)	Sネット
理事	小野田 智司(茅ヶ崎市)	Sネット
理事	高橋 健一 (茅ヶ崎市)	社会福祉法人翔の会
理事	千木良 正 (横浜市)	横浜弁護士会
理事	新見 正彦 (藤沢市)	Sネット
理事	藤本 直也 (鎌倉市)	Sネット
理事	増藤 純 (茅ヶ崎市)	本人の会希望
理事	牧野 賢一 (相模原市)	社会福祉法人湘南福祉センター
理事	山下 和男 (横須賀市)	Sネット
監事	塚越 博(鎌倉市)	Sネット
監事	宮内 智(秦野市)	社団法人神奈川県社会福祉士会

注) Sネット：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン

Yネット：NPO 法人福祉ネットワーク Yokohama-net

## 副理事長就任の挨拶

## Sネット事務局長

## 副理事長 江崎 康子

私は、オンブズマンとして9年目を迎えました。契約施設を訪問し、利用者の方から直接お話を伺い、声なき声まで聞き取って代弁することに心を傾けてまいりました。

この間、時には「オンブズマンはにこにこ笑って話を聞いてくれるけれど、それだけで、何の役にも立たっていないではないか」と叱咤され、時には「僕の言ったことが、こんなふうの実現したよ」と、満面の笑みでの報告に励まされ、頑張ってきたと思います。

高齢者福祉も、障害者福祉も「対等な立場での契約によりサービスを利用する」制度に変わりましたが、選択肢がない中で、やはり利用者は弱い立場に置かれていると言わざるを得ません。国の施策が福祉サービスの利用抑制に動いている今こそ、私たちの権利擁護活動の意義が問われるところです。

4月より、新しい事務所に移転し、オンブズマン活動の他に成年後見支援センターでの相談・支援事業も始まりました。法人として、新たな運営体制を作りだす必要性に迫られています。この転換期にあたり、副理事長としての任を果たしていきたいと思ひます。ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

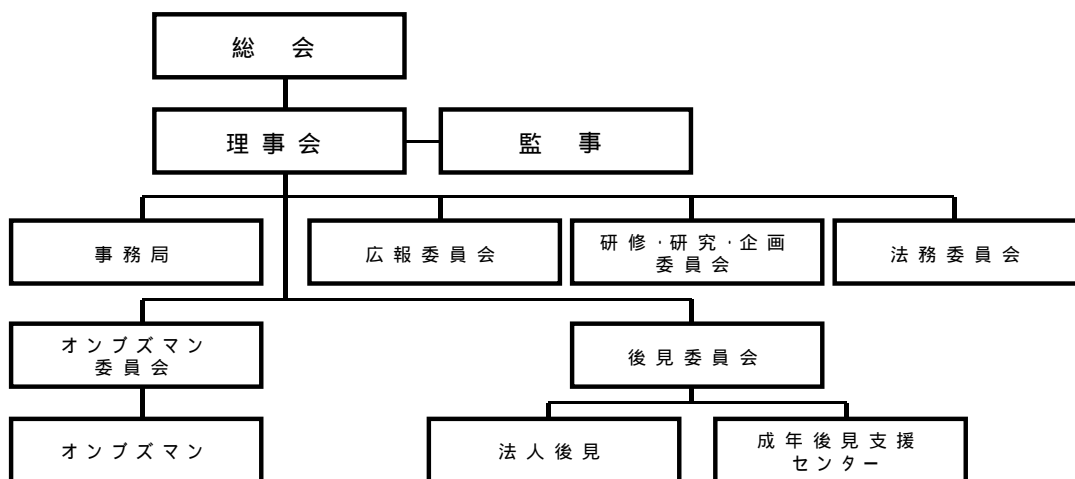
## 成年後見支援センター長

## 副理事長 永峯 千尋

茅ヶ崎市との協働事業として「市民による市民のための成年後見支援センター」を立ち上げ、3ヶ月がたちました。その間に寄せられた一つひとつのご相談を通し、成年後見制度の理解を広めることや、成年後見制度を必要とされる方の地域での生活に必要な援助のあり方を考え推進する上で、市内の関係機関の皆様と連携させていただくことの重要性を感じております。

また、この事業の企画立案に当たって、法人後見を受任してきた実践を踏まえ「成年後見制度を利用することによってご本人の権利を侵害することに繋がる危険性を避けたい」などさまざまな論議がされてきました。中でも成年後見人の職務に「財産管理」がありますが、Sネットでは「自分で判断することが難しくなった人」の声を真摯に受け止め、その人が望まれるであろう生活に少しでも近づけようとする「身上監護」こそ、この制度を使う時に大切にされるべきことと考えています。

このたび、副理事長を仰せつかりましたが、これは「ノーマライゼーション社会を目指す」という、Sネット設立時からの理念の実現に「成年後見支援センター」が果たすべき役割は大きいとの考えからと受け止め、微力ながら尽力して行きたいと思ひます。



Sネット組織図

### 湘南ふくしネットワーク 21 について

社会福祉法人湘南の風 稲木 俊夫 (S ネット 21 代表)

湘南ふくしネットワーク 21 (S ネット 21) は、2001 年 5 月、湘南ふくしネットワーク (S ネット) が NPO 法人格を取得し NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマンとして活動を開始した時に、NPO 法人と契約をした施設の有志が集まって出来た組織です。

S ネット 21 の加盟施設は、以前から S ネットの一員として、ネットワーク型、協働型オンブズマン活動を通じ、オンブズマンと共に障がいのある方、高齢者の方の権利擁護を目指して活動してきました。そして、その目標のひとつが、オンブズマンの中立性を担保するために、S ネットを NPO 法人化することでした。そのため、S ネットが NPO 法人化したあとは、私の中では船出した船を見送るような脱力感のようなものが生まれたことを覚えています。

それでも、S ネット 21 は、その後数年間は月 1 度の情報交換会、施設間相互のモニタリングや先進地域の見学等の活動を行ってきましたが、介護保険制度、障害福祉制度の大きな変革の中、個々の施設がその制度への対応に追われて、定期的集まることの意義を見つけれなくなり、結果として S ネット 21 としての活動が困難になってしまいました。改めて、区切りをつけるために今回、S ネット 21 の活動を一度リセットし、緩やかな連合体としてつながりをたもっていきたいと思います。

今後は、契約施設として、NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマンと協働型の姿勢は崩さずに、障がいのある方々、高齢者の方々の地域での権利擁護のあり方について考え、取り組んでいきたいと考えています。

### 新オンブズマンの紹介

#### - 神野トシ子さん -

オンブズマン 1 年生の神野です。平成 6 年 4 月、横浜市中央職業訓練校のヘルパー科を受講して 6 ヶ月間の学生生活を経験しました。たかが 6 ヶ月、されど 6 ヶ月・・・この学生生活が私の人生の後半を 180 度転換しました。福祉とは？ 社会保障とは？ 深く関われば関わるほど疑問を持つようになりました。介護保険の基本は自己申請・自己決定であり、支援計画の基本は「利用者本位・自立支援」にあります。しかしこれが有効に活用されているのでしょうか？ 周りに気兼ねすることなく自分の生きてきた道を主張し、心豊かに生きる権利を得られているのでしょうか？ 自分の気持ちを声に出せない方たちの代弁者としてご本人の心からの声を傾聴して障害を持っても穏やかに尊厳ある生活が送れるような社会であることを願って、微力ですが市民オンブズマンとして社会に訴えて行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

#### - 仲川 一清さん -

都内の特別養護老人ホームで 8 年、その後 5 年ほど介護福祉士養成校で働いておりました。「もう一度、一から福祉を学びたい」という思いから離職し、東洋大学の社会福祉学科で学んでいます。

大学での講義で S ネットのことを知り、一緒に活動させていただきたく申し出ました。

現在は高齢者施設を中心に訪問しています。実際に職員として働いていた時とはまた違った視点から、さまざまな制度を含め施設について考えさせられることが多く勉強になっています。そして、「果たして自分のこれまでの仕事は、利用者の権利を侵害していなかっただろうか」など内省の日々です。

利用者が「あたり前の生活」ができるよう介護をさせていただいてきたつもりですが、今度はオンブズマン活動を通してそれが実現できるよう、努力していきたいと思っています。勉強不足を痛感していますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## コラム - 「後期高齢者」について考える -

監事 塚越 博

このところ「後期高齢者」という言葉が新聞やテレビを賑わせている。「後期高齢者」という言葉、私達は使ったことも聞いたこともなかったのに、ある日突然に「後期高齢者医療制度」という制度が現れ、75歳以上の方はすべて「後期高齢者」とされ、この制度に組み込まれてしまった。そもそも「後期」とはもうこれ以上後がないということであり、後期高齢者と言われると不愉快になる。制度施行直後に通称「長寿医療制度」と変更されたが、本質は少しも変わらない。

この制度は、75歳で年齢を区切る医学的・経済的な根拠もないまま、75歳以上の高齢者とそれ以外とに区別し、後期高齢者だけを新設の医療保険の中に囲い込み、年金からの天引きを原則とする。保険料を納付しない(出来ない)者にはペナルティーを科し、診療報酬も切り下げ可能な別建てとし、保険の利く診療も制限される等々、医療費削減を優先し、高齢者一人ひとりが本当に必要とする診療の充実への配慮が欠けている。これでは不採算部門のリストラ、姥捨て山医療制度であるといわざるを得ない。誰でも、いつでも、どこでも、自由に診療を受けられる国民皆保険を誇っていた日本の医療保険制度が、崩壊の危機にさらされている。

今、この後期高齢者医療制度をそのまま放置することはできない。まずはこの医療制度をいったん廃止、または全面的に見直すこととし、地域の住民を包括的に支える制度を目指して、医療・保健・福祉などの社会保障を再構築すべきである。何より大事なものは、たとえ病んでも、老いても、死に臨んでも、明日への希望を持って心豊かにいられる環境をつくること、つまり税金を適切に使うことによって、政治への信頼を取り戻すことではないか。

## ～ 研修のご案内 ～ 「自分らしく生きる」 全3回シリーズ

### 第一弾「地域包括支援センターにおける権利擁護実践」

日 時：2008年8月30日(土) 14:00～16:30

ところ：茅ヶ崎市民文化会館 大会議室(定員82名)

対 象：どなたでも自由にご参加ください

講 師：中 美恵 氏(金沢市)【お年寄り地域福祉支援センターとびうめ(地域包括支援センター)センター長】

参加費：500円

主 催：特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン「成年後見支援センター」

お申し込み方法等、詳細は同封のチラシをご参照ください。

### 賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

賛助会員会費 ・個人 年額 一口 1,000円 (一口以上)

・法人 年額 一口 5,000円 (一口以上)

ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号：00210-9-75496

口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

### - 編集後記 -

- ・今回から編集を担当しています。コラムでは、今話題の言葉などを取り上げようと考えており、今回は監事の塚越さんに執筆いただきました。今後ともよろしく願います。(藤本)
- ・今回より編集を担当しております。皆さまに読みやすいよう工夫を重ねていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。(小野田)

成年後見支援センターだより「WISH(第2号)」を同封しています。